

JFグループの一員として

水産業への貢献

海と暮らしを守るために

周囲を海に囲まれた日本。

海がもたらす恵みを誰もが享受してきました。

地球温暖化や海洋汚染による生態系への懸念。

農林中央金庫は、JFグループの一員として、

日本の食を守るためにも、

漁業者をはじめ浜のみなさまとの連携を進めています。



環境・生態系保全活動への支援など

農林中央金庫では、JFグループの一員として、JFグループが行う保全・再生活動や資源管理型漁業などへのさまざまな支援を行っています。

環境保全活動

漁業者は、環境や生態系を守り育て、漁業生産を維持するために、藻場づくりや干潟の管理等に努めています。そのため、JFグループは本来業務として「資源保護や管理」「害敵生物の駆除」「種糸やプレートによる藻場造成」「干潟における二枚貝や稚貝の移植・放流」「サンゴ礁域における赤土などの流入防止対策」など、さまざまな保全・再生活動を行っています。

さらには、JF（漁協）の女性部や青壮年部を中心に、漂着したゴミ等の回収・清掃を行う「海浜清掃」や、森を守ることを通じて豊かな海づくりを目指す「植樹活動」などにも取り組んでいます。また、天然油脂を使った肌にやさしく自然環境に負荷も少ない石鹸のオリジナルブランド“わかしお”を開発し、使用運動に取り組んでいます。



JFオリジナルブランド石鹸“わかしお”

資源管理型漁業の推進

“獲る”から“育てて獲る”へ。JFグループにおいても、資源管理活動として、各浜の青壮年部が中心となり、漁獲量を決める、産卵場を禁漁区にする、漁具や漁法を制限し小さい魚は獲らないなど、さまざまな取り組みを行っています。また、稚魚や稚貝を育てて放流するなど、資源回復に向けた積極的な取り組みとして、「資源管理型漁業」を全国各地で実践しています。

また、JFシェルナース（貝殻魚礁）を設置して、稚魚のえさ場、隠れ場、保護育成場や産卵場などを作り、資源の回復と貝類養殖の副産物である貝殻のリサイクルに取り組んでいます。そのほか、藻場の造成・干潟の耕耘など、将来に資源を残すためのさまざまな取り組みを行っています。

当金庫は、こうしたJFグループの自主的な活動へ協力するため、浜の清掃作業に活用する「廃棄物処理袋」を提供しています。また、子どもたちや地域住民に対する啓発普及活動として、地球環境について学ぶ糸口としての「海藻おしば菜」や、



海藻おしば菜



エコお箸

魚食を中心とした日本型食生活の推進や食育活動に寄与する箸などを提供しています。

平成22年度は、海浜清掃に参加した全国306のグループ（取組人数60,250人）に「海浜清掃ゴミ袋」を20万枚配布し、「海藻おしば菜」を18万枚作成しました。また、魚食普及を中心とする食育活動を支援するため、JF全漁連・JForest全森連と連携し、富山県西部森林組合が制作するスギ間伐材の木粉等を使った「エコお箸」を5万膳提供しました。



海浜清掃ゴミ袋



JFシェルナース*



海浜清掃活動



資源管理型漁業*



干潟の耕耘*

*写真提供:JF全漁連

水産業への貢献

水産業振興に関する当金庫の貢献活動

水産業に対する教育啓発活動

全国漁業協同組合学校(千葉県柏市)は、「協同組合精神を持ったJF職員の養成」を目的としたJFグループで唯一の教育専門機関であり、昭和16年に創設されて以来、JFおよび漁村の指導者を多数養成し、送り出しています。高校や大学等を卒業し、JFグループへの就職を目指す新卒者やJF・JF漁連等の在職者が漁業や漁協に関する理論と実務を学んでいます。

当金庫も、賛助会員として、また、一部セミナーの講義等により、将来のJFを担う若きリーダー育成に協力しています。

「豊かな海づくり」運動への協力

当金庫は、昭和56年から毎年開催されている水産業最大のイベント「全国豊かな海づくり大会」に協力しています。

平成22年6月13日には、第30回大会(主催:豊かな海づくり大会推進委員会、後援:農林水産省、環境省)が天皇后両陛下ご出席のもと岐阜県で開催され、当金庫も中央機関として協賛いたしました。

こうしたイベントを通じて、水産資源の維持培養・海の環境保全に対する意識の高揚を図り、水産業への認識を深める活動に支援を行っています。



写真提供: JF全漁連

漁船海難遺児育英資金年末募金(水色の羽根募金)への協力

漁業は、大自然のなかでの厳しい仕事のため、安全管理に最善の努力を払っているものの、残念ながら毎年多くの尊い人命を失う事故が後を絶ちません。漁船海難遺児育英会は、漁業従事中に海難等の事故で、死亡・行方不明になられた方々の遺された子どもたちが、将来社会に役立つ人材に成長してくれることを願い、学資の給与、奨学金の貸与等の事業を行っている団体です。また、当金庫も設立以来協力を行っており、当初、小・中学生に対する学資給与制度からスタートした本制度は、現在では幼児から大学生まで一貫した育英事業に充実・整備されています。



水色の羽根募金贈呈式

JFマリンバンク「海の天気予報」の放送

JFマリンバンクでは、ニッポン放送をキーステーションに全国32局を結んで、JFマリンバンク「海の天気予報」を展開しています。

番組内容

- 【概要】全国の臨海地区を結んだ放送局ごとに「海の天気予報」を提供。
- 【内容】毎週月～金曜日の朝6～7時台を中心に、地元の海・浜の状況等を各放送局で制作・放送。



ABCラジオでパーソナリティーを務める
ながみつこ 永尾 光湖さん

全国海の子絵画展への協力

当金庫は、昭和53年から毎年開催されている「全国海の子絵画展」(主催:JF全漁連、後援:文部科学省・農林水産省ほか)に協力しています。

この絵画展は、小・中学生のみなさんが絵を描くことを通して、海に対する興味、漁業に対する理解や夢を持って育っていただきたいとの願いを込めて実施されており、平成22年度には、全国から約27,000点(参加校約1,100校)もの応募がありました。

海の子絵画表彰者

平成22年度も第33回全国海の子絵画展が実施され、文部科学大臣奨励賞、農林水産大臣賞をはじめ水産庁長官賞、NHK会長賞、教育美術振興会理事長賞、農林中央金庫理事長賞、全漁連会長賞の各受賞者が表彰されました。ここでは、農林中央金庫理事長賞を受賞された方々の作品を紹介します。

全国青年・女性漁業者交流大会から

水産庁補助事業により、全国の青年・女性漁業者が日頃の研究・実践活動の成果を発表するとともに、広く相互の知識や研究を交換し深めることにより、水産業・漁村の発展・活性化のための技術・知識などを研鑽すること

【農林中央金庫理事長賞受賞作品】

小学校の部



「出漁前」
佐野くん(静岡県)



「大好きな私の海」
宮内さん(山口県)



「魚の水あげ」
篠塚さん(茨城県)



「海の大ぼうけん」
中島くん(長崎県)

中学校の部



「早朝の殖生漁港」
熊本さん(山口県)



「干潟と船」
溝口さん(佐賀県)

を目的として、年に1度、全国青年・女性漁業者交流大会が開催されており、当金庫も後援しています。平成23年3月に開催された第16回大会において「農林中央金庫理事長賞」を受賞された5グループのうち、地域活性化部門で受賞されたグループについて紹介します。

「杉から始まった伊勢志摩海女小屋物語」

三重県 三重外湾漁業協同組合越賀地区^{こしか}

市の全域が伊勢志摩国立公園に含まれる志摩市志摩町越賀地区は、かつては海女漁が大変盛んで160名以上の海女がアワビ・サザエなどを獲っていましたが、現在では32名となり大幅に減少しています。海女漁の存続が危ぶまれるなか海女同盟会有志などが、志摩町と友好関係にある岐阜県郡上市の特産物である「杉」を有効活用した体験施設で、平成16年から「海女小屋体験活動」を始めています。



体験施設では、海女たちが地元で採れた旬の魚種類の炭火焼きや郷土料理の「てこね寿司」を振る舞って精一杯もてなしています。近年は、アワビなど磯資源の減少と魚価安により海女漁による収入だけで生活するのは厳しいですが、「海女小屋体験」で周年活動することにより、漁業のほかに観光業にも取り組むことで安定した収入を得ることができています。体験者のなかには、リピーターも大変多いため、再び「おもてなし」ができるように海女漁を守り、海女文化を発信し、「仲間と無事を確認しあい、皆が明日への力を得ていく場」として、新たな担い手確保や情報交換の場としての機能も高め、積極的に活動していきたいと考えています。